

活動名 学童工作教室の新展開と環境美化及び、 地域資源を活かしたふれあいイベントによる 地域社会の絆づくり	団体名	晴海町・青社会
	地域	広島県呉市
	代表者	会長 山本 正
	支援金額	30万円
活動概要		
<p>青社会設立後5年目の活動は、これまでの工作教室で開発した、省エネ手作り玩具工作の普及に注力するものとして、市の関係部署(教育委員会、地域協働課など)のアドバイスを受けて、従来から参加しているエコフェスタに加えて、子どもがより大勢集まる市の大型イベント、こども祭り、福祉祭りにも参加しました。そして多くの子ども達がものづくりと手作り玩具遊びの楽しさを体験することができ、大好評でした。また、大型イベント参加に伴う人手不足や内容充実対策として、「呉市立高校生」や「呉おもちゃ病院」との市民協働を試行したことも、成功につながりました。特に市高生とのこども祭りでの協働は、校長先生をはじめ、多くの方々の支援を得て、高校内で放課後、工作キット部品の下拵えを行ったほか、祭り当日の子ども達への工作や遊び方の指導にも大きな戦力となりました。また、今回の市民協働は、地域の幅広い絆強化の他、ものづくり技術の伝承の面からも有効でした。公民館での手作り玩具の展示と遊び体験コーナーについては、中央公民館他4地点で延べ500日開催し、約1,500人も子ども達が体験しており、今後につながる活動と評価されています。</p> <p>実施時期:2009年4月1日～2010年2月10日 晴海町自治会館を中心とした町内及び港町小学校 呉市民協働センター、市内公民館及び呉市主催のイベント会場他</p> <p>参加人数:・花まつり:230名・工作教室:178名・こども祭り:600名・エコフェスタ:300名 ・その他のイベント会場:1200名 公民館の玩具展示他:1500名</p> <p style="text-align: right;">参加総人員:4,008名</p>		



(中国新聞掲載)



(晴海町内夏休み工作教室)



(くれこどもまつり 集合写真)



(くれこどもまつり)

実施に伴う効果

市の大型イベント参加で多くの子ども達がものづくりを体験。特にこども祭りの呉市立高校生との市民協働が初参加で成功した実績は今後繋がる他、幼稚園児、小学生、高校生を含めた幅広い地域の絆強化に役立った。また、ものづくり技術の伝承効果も期待できる。

手作り玩具の展示、遊び体験コーナーで玩具工作の人気上昇。中央公民館他、4会場での延べ500日を越える。展示と遊び体験コーナー設置により、述べ1500名の子ども達が遊んでおり、今後そのPR効果が期待される。

市の大型イベント、こども祭りへの市立高校生と青社会の市民協働参加による成功は、市の関係部署より高い評価を受け、ボランティア情報紙で報告された。

市の地域協働課を通して、広島市中区の市民団体から青社会活動の説明依頼があり、同団体の「呉市のまちづくり視察研修」の場で5年間の活動事例を紹介した。

市民協働センターや公民館等での手作り玩具教室や遊び体験コーナーが話題となり、9月12日の中国新聞朝刊に掲載された。

青社会開発のドーナツ形糸引きこまとその工作教室が話題となり、市のボランティア情報紙3月号に掲載された。

苦労した点

市の大型イベント、こども祭り参加等、活動のスケールアップに苦慮。従来の工作教室参加者は30名/回程度に対し、こども祭りのスーパーカー工作希望者はその10倍以上集まった。会場のスペース不足で45名で時間切れとなり、作れない子ども達は展示された玩具で遊び、体験のみとなった。次回からは工作スペース拡張及び部品数の削減など工作難度の改善も検討する。また活動スケールアップは、単に材料費の増加のみでなく、工具類、材料部品の収納箱等の費用増となり、予算面も厳しいものとなった。

新設市民センターを会場とした工作教室のPR不足。工作教室の主要会場を開設2年目の市民協働センター(広市民センター内)として、市の広報(市政だより、ボランティア情報紙)に掲載してもらいPRしたが、参加者不足を生じた。駐車料や旧呉市内からの距離の問題もある。

4地点の公民館等で開催した手作り玩具の作品展示と遊び体験コーナーは好評であったが、破損玩具の補修など、メンテナンスに苦労した。

今後の課題・発展の方向性

玩具の工作図、遊び方などソフト面の整備

活動範囲の拡大と玩具の種類増加に伴い、新規図面作成や訂正、遊び方説明書など整備が必要であり、人気作品から着手予定。

大型イベント会場の参加者予測と工作スペースの事前調整に今回経験を活かす。

新開発の糸引きこまのブラッシュアップとPR。

昨年秋から着手していた糸引きこまの試作品が完成し、1/16(土)に第1回工作教室を港町小で行い、子ども達、保護者、先生方等参加者全員に好評でした。

今後さらに、工作難度の改善、低学年向け、高学年向けの差別化など、作品群の展開とコストダウンを図り、平成22年度の主力作品に育てたい。

市民協働の協働先との関係強化など、一層の活動充実

市立高校生、呉おもちゃ病院の他、新たな協働先追加を含め活動強化と世代交替の検討要。

活動を終えての感想・意見等

・評価された玩具展示会場の作品メンテナンス

玩具工作の普及策のひとつとして、公民館で開催した作品展示と遊び体験コーナーは、オープン直後から好評で、4会場を延べ500日を超える長期間となった。この間、作品の修理や部品の補充等、メンテナンス回数で40回以上を要し苦労したが、この活動が市職員に評価されて、当初の1~2週間の予定が長期展示となり、作品PRに役立った。また次年度も展示の予定。

・今年度の活動を振り返ると、常に私共ボランティアの支えとなったのは、厳しい経営環境の中で市民活動を支援下さるマツダ企業グループの青少年健全育成に対する熱意(精神)です。私共は感動して、各課題に取り組みました。そしてその感謝の気持ちが、正月休み返上で取り組んだ3学期工作予定の糸引きこまの試作でも生かされ、小学生が10点の部品を組み立て作る「ドーナツ形の新型糸引きこま」が生まれました。プラとんぼ、スーパーカーに続くヒット作品にすべく、今後も努力します。これまでの貴財団のご支援に心から感謝いたします。